

新政権下の援助スタンス～新ＪＩＣＡに向けた準備など～

2007.2 河内 祐典

1. 新政権下で行われたこと

(1) 19年度予算

- ・ 経協：「量から質へ」の継続。規模縮減。アフリカ重視。
- ・ 機構定員：新設大使館が6つ。うち3つがアフリカ。定員も増。

(2) 19年度財政投融资

- ・ 「官から民へ」の流れの継続。規模縮減。
- ・ 但し、ＪＢＩＣ（特に円借款）については、国際公約を踏まえた対処。

(3) 新ＪＩＣＡ法成立

- ・ 現在のＪＩＣＡとＪＢＩＣ円借款部門が統合。これにより、「有償」「無償」「技協」を一手に引き受ける機関誕生（来年10月）。

ここまでは、基本的に前政権の方向性の踏襲？（前政権時代に「種まき」のなされていたイシューなので当然と言えば当然）

2. 今後行われること

(1) 新ＪＩＣＡ発足に向けた準備・制度設計

- ・ キーワードは「融合」。
組織；有償・無償・技協をいかに有機的・一体的に融合させる組織・部局を作り上げるか。
人事：旧ＪＩＣＡの人に有償を、旧ＪＢＩＣの人に無償・技協を、という「交流人事」をどれだけできるか。
- ・ 新政権のスタンスは、まずはトップ&役員人事に出る？（中小企業金融公庫の例）。

(2) 平成20年度予算・財投

- ・ 春から夏にかけ、「骨太の方針」の作成、概算要求基準（シーリング）決定などが行われ、平成20年度予算の大まかなスタンスが明らかになる。
- ・ 歳出削減圧力がある中で、ＯＤＡ関係予算の扱いはどうなるか。

(3) 海外経済協力会議の扱い (最重要)

- ・ 昨年 4 月発足。メンバーは総理、官房長官、外相、財相、経産相。これまで 6 回開催。
- ・ 日本版 NSC との関係がいかに整理されるか。

3 . 援助スタンスにかかるヒント (私見)

(1) アフリカ重視

- ・ 援助を、「外交力の主要な柱の一つ」とであると捉えた上で、エネルギー問題、グローバルな援助潮流との足並み、等の観点からアフリカ重視の姿勢？ (国連安保理常任理事国への道程？)

(2) 援助と安全保障の緊密な連携

- ・ 「援助」と「軍事」は車の両輪？
- ・ 仮に海外経済協力会議が、日本版 NSC の関連 (下部) 組織に位置づけられる形となれば、そうしたスタンスが一層顕著に。
- ・ 新 JICA の機能。類似概念である「人間の安全保障」といわゆる「安全保障」の融合はあるか？

(3) 数値目標 & 弱者対策

- ・ ODA 国際公約への配慮はある。1 月の海外経済協力会議でも国際公約の着実な実施を確認したりしている。
- ・ 弱者への配慮も強い。国内施策の主要柱の 1 つは「再チャレンジ」。
- ・ こうした中、ODA は如何に位置づけられていくか？

(4) ソフトパワー

- ・ 新政権のキーワードの 1 つ = 「美しい国」。(それ自体は必ずしもソフトパワー的な趣旨で用いられているわけではない)
- ・ 「美しい国」を海外にアピールすることで日本へのあこがれを惹起する、というソフトパワー的アプローチは可能か。そのとき援助というツールの出番は？
先般出された Armitage/Nye Report にも記述あり。

(以上)